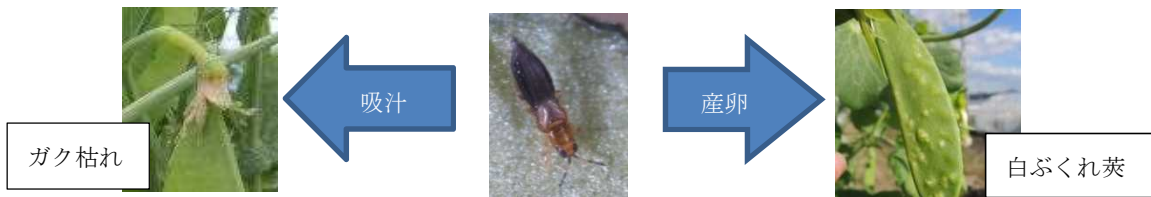


キヌサヤエンドウのハナアザミウマ防除対策

農業試験場 副主査研究員 高岸香里

【要約】

日高地域のキヌサヤエンドウでハナアザミウマの発消長を調査したところ、9月下旬～10月上旬と11月中下旬の2回、飛来のピークがあった。また、光反射マルチの設置および白色防風ネット挟み込み処理は、ハナアザミウマの被害であるガク枯れ、白ぶくれ莢の発生防止に効果があった。



【背景・ねらい】

近年、日高地域のキヌサヤエンドウにおいて、莢のガク枯れや白ぶくれ莢が多発している。これらの被害は、ハナアザミウマの加害が原因である。しかし、キヌサヤエンドウほ場における本種の発消長は明らかになっておらず、薬剤防除のみでは防除効果が得られないことが多い。そこで、現地ほ場に青色粘着トラップを設置し、発消長を調査するとともに、2種類の物理的防除法について防除効果を検証した。

【成果の内容・特徴】

1) ハナアザミウマの発消長

青色粘着トラップにおけるハナアザミウマの誘殺数のピークは、9月下旬～10月上旬と11月中下旬の2回であった（図1）。

2) 物理的防除法の効果

光反射マルチの設置、白色防風ネット挟み込み処理は慣行栽培と比較して被害莢率が低く、ハナアザミウマ被害の発生防止に効果があった（図2）。

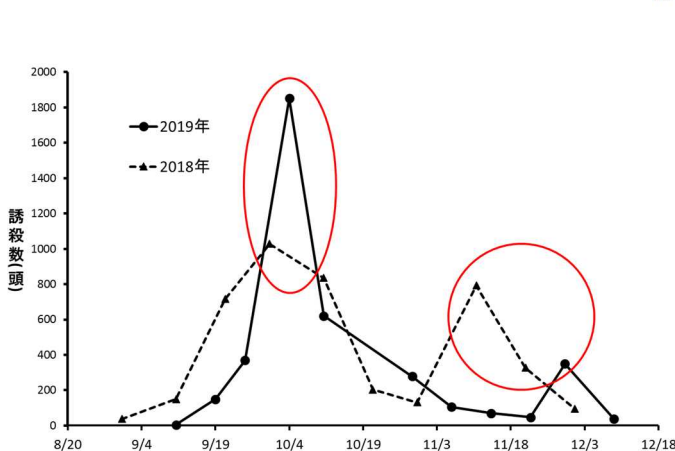


図1: 青色粘着トラップにおけるハナアザミウマ誘殺数の推移 (印南町)

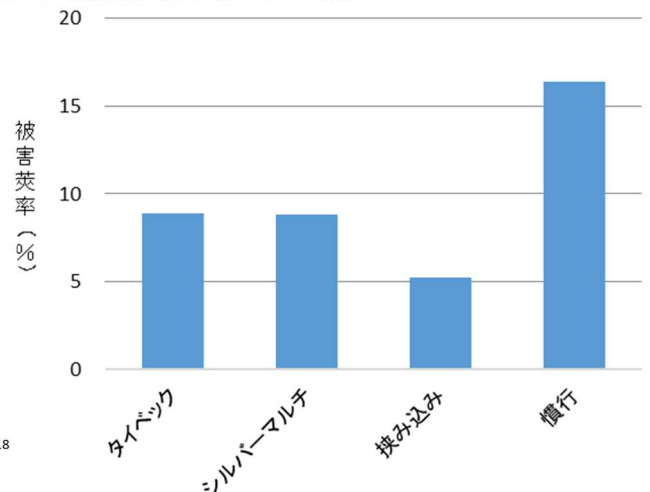


図2: 各物理的防除法における被害率 (印南町島田)

処理開始日: 2020年9月29日

調査日: 2020年10月20日～12月2日